

天皇杯全日本サッカー選手権の
大分県代表になったジェイリースFC監督

柳川 雅樹さん（37）
やながわ まさき

ひと

今季就任し、創部7年目のチームを初めて県代表に導いた。1回戦は26日、FC徳島（四国リーグ）と対戦する。「誇りと責任を持ち、大分の代表として恥じないサッカーをしたい」と意気込む。

兵庫県三田市出身。兄の影響で幼少期から競技を始めた。中学1年でJ1神戸の下部組織に入り、高校卒業後にトップチーム昇格。センターバックとして甲府や鳥取などJチームで9季プレーした。

Jチーム9季、海外経験も

U-20日本代表で共にプレーした内田篤人さんや香川真司さん（いずれも元日本代表）らの活躍をはた目に「もどかしさを感じた。国は違えど海外でプレーしたい」と28歳でフィリピンのチームに移籍した。選手の傍ら、監督や広報も担い、1部リーグ初挑戦だったチームを4位に押し上げた。

引退後に「まだまだ勝ち負けの環境に身を置きたい」と本格的に指導者を志した。関西学生リーグに属する大学の監督やJ2岡山のコーチを務めてきた。

「選手の特長をどう生かすかが大切。一つのやり方だと手詰まりする」と対戦相手の分析やミーティングに時間を割く。選手の調子や戦術理解度、相手の戦い方に応じてシステムを柔軟に変更しながら勝機をうかがう。

大分市内で妻、子ども2人と暮らす。多忙だが「子どもと遊ぶ時間をつくるのも大事」と家族サーブスにいそしむ。
（中丸遼）

